

西濃農林事務所の普及活動状況

平成28年8月31日現在

今月の重点活動

■海津就農応援隊結団式

8月11日に新規就農者の育成確保をさらに加速するため、新規就農者を地域ぐるみで応援する「海津就農応援隊」が結成され、その結団式が、海津市夏祭り会場にて実施された。多くの海津市民、関係者が集まる中、結団式が高らかにとり行われた。



活力ある新産地づくり

■ブロッコリー 各地域では種始まる

ブロッコリー育苗が各部会で始まっている。毎年、作付面積が拡大しつつあり、栽培期間が長期化していることから、播種日を昨年より前進化している。28年は西濃地域全体で約30ha(前年より5ha増)となる見込みである。西濃地域では、部会員で共同育苗を行う部会、JA職員で育苗を行うなど、様々な形態で育苗が行われている。

8月初旬の気温が異常高温であったため、発芽時に高温障害を受け、発芽不良となっている苗もあるが、全体的には生育は順調である。農業普及課は播種支援を行うとともに、育苗農家を巡回し、育苗及び防除指導を行った。

多様な担い手づくり

■集落営農組織の法人化支援

「玉地区」(関ヶ原北部営農組合)の法人化検討

8月17日に関ヶ原北部地区センターにおいて、営農組合の法人化を目的とする集落住民懇談会を開催した。

県集落営農アドバイザー楠本雅弘氏を招聘し、法人化によるメリットや法人経営の仕方等について先進事例紹介などを含め解説し、住民の法人化に対する理解を深めた。関ヶ原町においては、これまで営農組織の法人化を進めてきており、「集落営農システム確立サポート支援事業」により今年度、玉地区を法人化の重点支援地区としている。

墨俣営農組合の法人化

墨俣営農組合において、8月7日に法人化協議会が開催された。墨俣営農組合では、平成29年5月の法人設立に向けて、毎月第一日曜日に協議会が開催されている。今回は、農業経営課革新支援専門員を交えて、定款作成に向けての話し合いが行われた。今後、農業経営改善スペシャリスト等を活用しながら、法人化を目指す。



【協議会の様子】

■ トマト研修生 就農支援会議担当者打ち合わせ会議

大垣市内で就農を希望する県就農支援センター研修生1名に対する就農支援担当者会議が8月2日に実施された。農業振興課が招集し、大垣市、JA、支援センター、農業普及課が参加し、関係支援機関で情報共有後、研修生を交えて意見交換を行った。

現在の候補地（川並地区）で就農した場合の出荷方法他、農地確保やリースにかかる諸調整事項を考慮しながら最適な方法について検討を行った。



【打ち合わせ会議の様子】

売れるブランドづくり

■ 水稲 収穫始まる

水稲の収穫が、海津市のあきたこまちが8月10日から始まるのに続き、各地で早生品種の収穫が始まる。

これを受けて7月27日にJAにしみの共同乾燥施設の稼働についての打ち合わせ会議が開催された。農業普及課からは夏の高温による収穫時期の変化や斑点米カメムシ類の対策等について助言を行った。

■ 冬春野菜 栽培準備始まる 海津市・他

冬春野菜の作付け準備等が始まっている。農業普及課では栽培研修会や研究会を通じて栽培技術支援を行っている。（以下、主なもの）

＜トマト・きゅうり＞

土壌診断結果に基づいた施肥指導を行った。診断の結果、多くのハウスでリン酸過剰が見られたので、基肥においてリン酸分の少ないV型肥料によるリン酸減肥の施肥モデルを提示した。

＜ナバナ、春菊＞

ナバナは8月2日、春菊は8月4日に、は種に向けた栽培研修会を開催した。特に今年はJAにしみのが主催する「帰農塾」の参加者や新規栽培希望者が研修会に参加し、今後、栽培者として定着できるように支援していく。

■ なし 出荷が始まる 大垣市

なしの出荷がピークを迎えている。一番早い「なつしずく」の出荷が7月25日から始まり、続いて7月31日からは「幸水」の出荷が始まった。

「幸水」は8月17日に、大垣市奥の細道むすびの地記念館前広場にて「即売会」を開催し、650余個がわずか15分足らずで完売した。また、大垣市で作成した梨の直売マップが配布された。

なお、「幸水」に続き、「豊水」も8月22日から出荷が始まっている。 【即売会の様子】



■ 朝市直売所 朝市農産物生産研修会の開催

8月8日に朝市農産物生産研修会を開催した。西濃地域の朝市直売所生産者や関係者など56人が出席した。研修会では、直売所での適正な食品表示や農薬の安全使用について呼びかけた。

また、農薬の安全使用を啓蒙するために「朝市農産物に使われる主な農薬の使用の目安」を印刷して各直売所へ配布した。

